

# 会長挨拶

第 37 回日本糖尿病動物・肥満学会年次学術集会  
会長 水上 浩哉  
(弘前大学大学院医学研究科 分子病態病理学講座)

第 37 回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会を 2024 年 3 月 15 日(金)と 16 日(土) の 2 日間、弘前大学創立 50 周年記念会館（弘前大学文京キャンパス内）にて開催させていただきます。本学会は 30 年以上の伝統を有する学会であり、前任の八木橋操六名誉教授が 2003 年に糖尿病動物学会として年次学術集会を開催して以来約 20 年ぶりの青森県開催となり、大変光栄に存じます。昨今の糖尿病・肥満の治療の進歩は動物モデルを用いた基礎研究の礎があったからこそ発展しているといっても過言ではありません。本学会はモデル動物を用いた糖尿病研究における様々な分野の研究者が一同に会し、直接情報交換できる貴重な場を提供して参りました。また第 36 回学術集会より日本糖尿病学会の分科会となり、糖尿病学会とより緊密に連携しモデル動物を用いる基礎研究を推進する役割も担っております。

第 37 回学術集会では特別講演は、糖尿病の病因について臓器間シグナルの面から世界的な研究を行っている東北大学大学院 医学系研究科 糖尿病代謝内科学分野の片桐秀樹教授と病理学的な研究として、化石の新しい解析で知られている北海道大学北海道大学理学研究院 地球惑星科学部門の伊庭靖弘准教授にお願いしております。また、プレナリレクチャーでは、「酸化ストレスと Goto-Kakizaki ラット」という題で、酸化ストレスの概要と Goto-kakizaki ラットについて弘前大学の伊東健教授と八木橋操六名誉教授にご講演いただく予定になっております。糖尿病治療においてその合併症の進展阻止が重要なのはいうまでもありません。そこで「モデル動物から理解する糖尿病合併症」と題して、合併症研究の中心としたシンポジウムを企画しております。若手研究奨励賞の口演審査では例年通りのハイレベルな研究発表と質疑応答を期待したいと思います。

3 月の弘前は長い冬が終わり、春を迎える時期となります。コロナ禍により数年間学術集会を集合型で行うことができませんでしたが、前回学術集会に引き続き本学術集会は対面で行う予定です。ぜひ現地にいらして北国の春を迎える躍動感そのままに熱い議論を期待すると同時に、弘前自体の味覚なども堪能していただけたらと思います。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。